

国際学部 学位授与の方針

国際学部国際学科及び言語文化学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、審査を受けて合格に達した者に対して、学士（国際学）の学位を授与します。

以下に達成の基準である学修成果を示します。それらは、国際学部に通ずる基準、各学科の基準、そして、各専攻の基準により構成されます。

<学修成果（教育目標）>

●国際学部共通の基準

1. 学究的な思考方法に基づいて、理論的な考察と学際的な研究を深め、その知識を国際社会で活用できる能力を有している。
2. 国際社会の諸課題に取り組むさまざまな組織の中で、チームワークを重視するとともにリーダーシップを発揮できるマネジメント能力を有している。

●国際学科共通の基準

1. 英語に関する高い運用能力を持ち、国際社会の多様性を認識して相互のコミュニケーションを円滑に行うことができる。
2. 複言語能力の涵養に努め、多種多様な言語・文化を持つ人々と交流できる。
3. グローバリゼーションの進展によって多様化・複雑化する国際社会の諸課題について、対応するために必要な人文科学・社会科学を多面的に学修し、専門的知見や技能を活用できる。

●国際学科各専攻の基準

<<哲学・人間学専攻>>

1. 哲学や思想、人間学、歴史学に関する重要文献や資料を正確に読解するために必要な論理的思考力と日本語力、語学力を身につけている。
2. グローバル化、科学技術の進展によって深刻化する現代の国際社会の重要課題を主体的に考察しつつ、人間や社会のあり方を哲学的・歴史学的な観点から批判的に問い直すことができる。
3. 東西諸文化の差異や特殊性とそこでの日本の位置を、思想や歴史の視点から理解するとともに、人類に共通するグローバルな普遍性を探求する、開かれた対話的な態度を身につけている。

《国際政治学専攻》

1. 国際社会の諸問題を理解できるように、国際政治学・国際開発学の基本的な知識を有している。
2. 世界の課題や問題の原因を見出し、それらを解決するための方策をグローバルな視野で考え、チームの中で主体的に行動することができる。
3. グローバリゼーションのなかで問題解決に必要となる適切な情報を収集し、論理的に議論することができる。

《国際経済学専攻》

1. グローバル化が進む国際社会の中で活動する企業、消費者、政府といった様々な主体の行動や相互依存関係やそれらが社会に及ぼす効果を定性的かつ定量的に分析し、グローバル社会における経済主体間で生じる課題・問題を解決できる能力を身につけている。
2. グローバル社会の中で活動する企業の経営管理や経営戦略について、理論や数量的スキルを用いて定性的かつ定量的に分析し、企業が抱える課題・問題を解決できる能力を身につけている。
3. 多様な文化的背景を持った人々との開かれた対話を通じ、組織運営を行う能力を有している。

《Global Liberal Studies 専攻》

1. Students will have attained a global perspective on contemporary issues.
現代の諸問題についてグローバルな視点を獲得している。
2. Students will be able to engage, both orally and in writing, in the critical analysis of global issues.
グローバルな問題の批判的分析に会話でも論文でも取り組むことができる。
3. Students will have achieved a high level of proficiency in Japanese.
日本語の高度なプロフィシエンシー（熟達度、運用能力）に達している。

●言語文化学科共通の基準

1. 「言語文化の専門家」という立場から、社会における様々な事例に対し、自らの意見を世界に向けて発信することができる。
2. 言語文化に関する広範で深遠な知識と教養を活かし、その時々 of 社会的文化的文脈に応じて、しなやかに対応することができる。
3. 英語やその他の外国語を用いて国際社会の様々な場面に適切に対応できる外国語運用能力を有している。

●言語文化学科各専攻の基準

《複言語・複文化学専攻》

1. 複言語・複文化能力の向上に努め、多種多様な言語・文化を持つ人々と交流できる。
2. 世界の様々な言語・文化の多様性と普遍性を深く認識し、母語・母文化・アイデンティティを相対的に捉えることができる。
3. 多種多様な言語・文化を持つ世界の人々との協働を通じて、多様なイノベーションの創出・問題解決・情報共有・相互理解を促進するファシリテーション能力を有している。

《英米学専攻》

1. リンガ・フランカとしての英語のあり方を前提として、実際的に英語を使用し、広く多様な国際コミュニケーションを円滑に行うことができる。
2. 英語という言語に対する体系的理解を深め、英語教育者・実務翻訳家・通訳者等になるために必要な専門的能力を身につけている。
3. 単に英語圏の文化や文学・歴史のみならず、多くの英語圏の国々と日本の文化や文学・歴史との比較も含めて学修し、英語圏文学・文化の多様性と、ナラティブという切り口から国際社会のあり方や成り立ちを複眼的かつ体系的に理解できる。